

人とクルマと環境との調和が、
カーライフの楽しさをどこまでも広げてくれる。

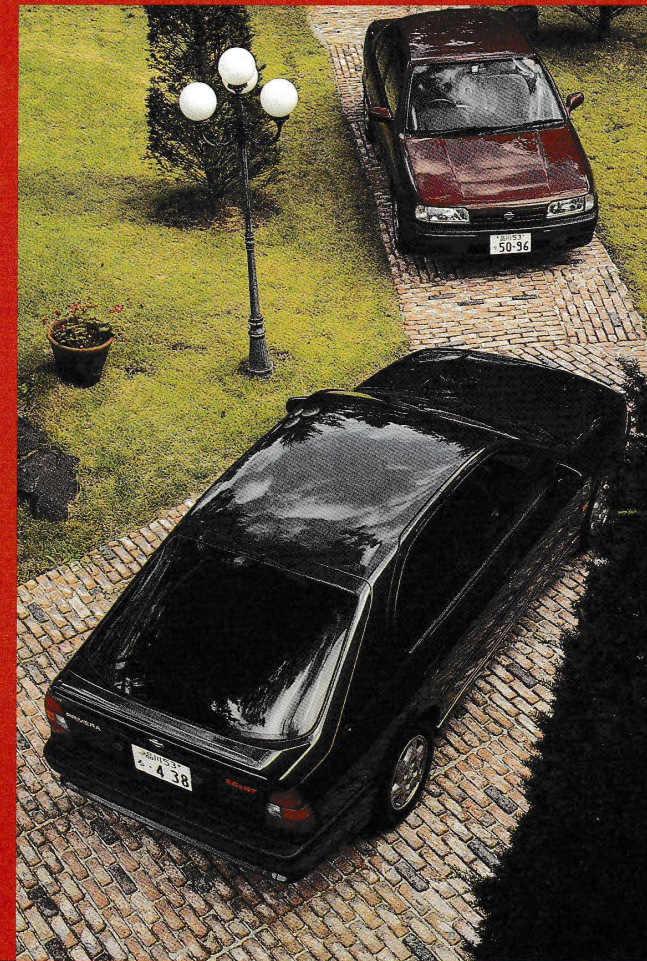


欧州の風土は日本のそれとは違い、その場所ごとに、まるで映画のスクリーンを観ているようにいろいろな表情を見せる。刻々と変化を重ねる風景に加え、気候や季節感さえも千変万化するのである。例えば、長期の休暇を利用して、欧州の国々を走ってみる。距離は、およそ2000キロ。日本では考えられないほど壮大なクルージングだ。どこまでも続く、まっすぐなハイウェイ。川沿いを流れるロマンチックな街道。窓越しには、風情のある田舎町。走りを堪能できるだけでなく、その全てのアイテムが、クルージングの心地良さをいちだんと高めてくれる。平坦な道を走り続けると、やがて国境を越え山道に入る。これまでとは一味違った風景との、感動的な出逢いだ。吐息が色づくほど冷たく澄んだ、外の空気。山々の頂上から望める、雄大な自然。明るい空から降り注ぐ、突然の雨。まるで、季節をタイムスリップしたような不思議な感覚だ。昼と夜をいくどとなく越え、ドライバーは、いくつかのシーンの目撃者となる。再び町に降りると気温は一気に上昇し、活気に満ちた人々が姿を現わす。春から夏へ。目の前には、青々と澄んだ海と青い空が、どこまでも広がっている。このように、欧州には、クルマを使って休暇を思うがままにエンジョイするための、さまざまな条件が存在している。だからこそ、実用性を重視したクルマ選びという風習が広く浸透しているのであり、必然的に長距離ドライブを楽しむといった習慣が備わってきたのである。

欧州で高い評価を集めたプリメーラ。 その理由を、多くの人に知ってほしい。

日本のクルマ事情を考えると、確かに実用性だけが全てといえない面もある。しかし、欧州における長距離を長時間に置き換えた場合はどうだろう。実用性、つまり運転しやすく、快適で、必要なパワーを十分に備えているということは、もしかしたらこの日本にこそふさわしいクルマといえるのではないだろうか。

プリメーラは、欧州の国々で高く評価され、その優れた実用性と、機能的で飾らない美しさのスタイリングで、多くの人々に愛されてきた。今回日本に輸入された5ドア2.0eGTも、発売と同時に欧州で多くのファンを獲得した。それは、プリメーラがいかにバランスのとれたセダンであるかということの証しでもあるわけだ。コンフォート・パッケージセダン、プリメーラ。このクルマには、こだわりをもってモノを選び、ゆとりをもって何かに取り組もうとする欧州の精神が、脈々と息づいているのである。



EUROPEAN COMFORT CAR LIFE

欧州車生活事情

PHOTO: 5ドア2.0eGT、2.0Tmオプション装着車
取材協力: ホテルホリデー・クレスト・軽井沢
塩沢湖レイクラント
ロンギングハウス